

2017 シーズン第2回サポーターミーティング要旨

【日時／場所】

2017年9月18日(月・祝)／長野Uスタジアム 記者会見室

【登壇者】

- ・代表取締役社長 堀江 三定
- ・ゼネラルマネージャー 美濃部 直彦
- ・強化ダイレクター 小笠原 唯志
- ・統括本部長 有賀 寛

【堀江社長 冒頭挨拶】

一昨日のレディースの試合、昨日のトップチームのアウェイでの試合に行っておられた方もいらっしゃるかと思いますが、そのような中で本日はお集りいただきありがとうございます。常日頃はパルセイロに熱い応援といろいろな形でのご支援をいただいておりますことを初めに御礼申し上げたいと思います。

また、冒頭お詫びを申し上げたいと存じますが、サポーターミーティングの定期的な開催ということでお話をしておりましたが、本来前半戦が終わった中での開催と思っておりましたが、天皇杯が入ったこともあり、スケジュールの問題でこのタイミングでの開催となりましたことをお詫び申し上げたいと思います。

我々は地域に支えられているクラブということを常に忘れないでやっているつもりです。そういう意味で皆さんとの意見交換や交流については大切に考えておりますし、いろいろな要望などもあるかと存じますので、お互いに共有できればと思っています。ただ、いろいろな事情もありすべてのご要望にお応えすることができないのも事実で、クラブとして未熟な部分もありますが、皆さんにご理解いただけるクラブを目指して努力していつている次第ですので、ご理解いただけたらと思っています。

【前半総括】

■ トップチーム

J2 昇格という大きな目標に向かって、選手・監督・スタッフは日々頑張っているところ。ただ、現在は期待に応えられていない成績であることは事実。なんとか現場を支えようとやっていますし、まだ可能性は残っているので、最後まで頑張ってもらいたいと思っています。残り10試合で、可能性としては非常に低いかもしれませんが、選手たちも昇格1本に絞って取り組んでいるので、もう一度皆さんに後押しをしていただきたいと思います。

■レディース

横山選手移籍後はなかなか勝てない状況が続きますが、なんとか横山選手が抜けても勝てるように試行錯誤をしています。レディースはアマチュアで、トップチームはプロということで若干の違いはあるが、1部でやっている以上、上位(3位以内)を目指している。今年は厳しいが、残り3試合頑張ってもらいたい。そして、最後のタイトルの可能性となる皇后杯は優勝を目指して戦いたい。

■集客

昨年、トップの平均入場者数は5,000人だが、現在4,500。成績などに付随する部分もありますが、足を運んでもらえる努力を引き続きしていきますし、残りの試合でいいゲームをして楽しんでもらえるようにもしたい。

レディースの平均入場者数は昨年3,300人。今年はカップ戦を入れても2,500人。横山選手のラストゲームが含まれているので、落ち込んでいるのは事実。リーグ全体で動員が進んでいませんが、なでしこリーグの理事と話す中でパルセイロに引っ張ってもらっているというお話をいただいています。長野からもう一回なでしこを盛り上げたい。

■経営状況

昨年は6.8億円。皆さんのおかげでクラブの収入は増えており、現状で行くと今年も増収の見込みだが、入場料収入が大幅に減っている。ここを増やさないと来年度のライセンスに向けても会社としての成績も出さなければならない。スタジアムのグッズなどを含め考えながらやっているが、急に伸びるものではないので、さまざまな形で収入を増やせるようになっていきたい。

シーズンチケットに関してはトップ875枚 レディース326枚ということで共に増えている。定期的に来られる方は増えているが、さらに増やせるようにしたい。サポーターズクラブの会員は昨年とほぼ同じ。こちらは努力が足りていないので、皆さんの協力を仰ぎながら改善していきたい。

選手の露出や駐車場、スピーディーな広報など、皆さんにいただいた課題も満足にはないが、改善してきている。駐車場については行政や関係各所と常に話をしておりますけれども、国交省の制約や市の条例などで思うようにいかないが、民間の駐車場の借り入れは少しずつ増えている。細かなところで、満足を得られていないかもしれないが、改善している点もあるのでご理解をいただければと思う。

【質疑応答】

■強化部門(レディース)

ー横山選手が移籍して戦術を変えたと思うが、選手たちが窮屈そうではないか？

(小笠原)『横山選手移籍後、今の戦術を浸透させようと現場は奮闘しています。これを乗り越えられればもう一つ上のレベルへ行けると思いますし、選手たちが頭を使ってなんとか状況を打破しようとしているので、見守っていただけたらありがたいです。』

ークラウドファンディングを利用してアメリカの女子チームと提携して新人発掘を行っていたが、今後もそういうものがあるのか、展望を教えてください。

(有賀)『今年4人の大学のコーチがきて、11人の選手がアメリカの大学に留学する機会を得ました。現在は10人のコーチから手が挙がっていて、ぜひ継続してほしいと要望がきています。来年のスケジュールの件などもあり検討中だが、長野には大学の数が少ないため、他の地域と比べるとその部分での戦力の発掘ができないというのと、何よりもビジネスモデルとしてアメリカとの繋がりをもっておきたいということで始めたものなので、息の長い企画になると思うが、試行錯誤しながら続けていきたい。』

■強化部門(トップチーム)

ー常にリバーフロントへ練習見学に行っているが、練習が足りていないのではないか？

(小笠原)『いつもご来場いただき、ありがとうございます。現場に関してはフィジカルコーチやトレーナーもおりますし、浅野監督と話し合いながらやっている中で信頼をおいています。我々はそういう現場の方針をサポートしていただくだけです。強化としても現場とは違う点で評価や分析もしていきますが、今は現場を信頼してやっていくということを買きます。』

ートップチームのケガ人の数は強化部の想定内か？また、今年度のケガの防止策、リカバリーなどについての考えを教えてください。

(美濃部)『ケガ人の数は残念な結果が出ているように思っています。ただ、トレーナーとコミュニケーションをとったり、トレーニングのスケジュールに関して我々が直接口を挟んだりする事はできません。我々がやれることでケガ人を少なくするために、治療器を入れることやクラブハウスの改善、トレーナー増員などの点で課題が残っているのは事実だと思います。また、ケガ人のデータについては、こういった部位をケガしているのか、こういったケガの繰り返しが起きているのかというところの検証はしてもらうようにして、強化としてのデータとして残ることは考えています。』

ー現在、筋トレやメンテナンスの部分は個々の選手の取組なのかチームとして決めてやっているのか教えてください。

(小笠原)『スポンサーの松田・南信様の筋トレルームとエフバイエー様を利用させていただいています。加藤フィジカルコーチ主導のもとで、メニューを適宜決めて取り組ませています。』

す。』

ー天皇杯とリーグ戦でパフォーマンスが違うことについて選手に聞いた時、『プレッシャーの違いかな』という声を聞いたことがあった。それは応援の仕方などに問題あるのか、応援がプレッシャーになっているのかと考えることもあるが、どうか？

(大橋【元選手の立場から回答】)『選手がプレーする中で応援がプレッシャーには感じません。たくさんの皆さんに応援してもらえるのは嬉しいし、ありがたいと思っています。天皇杯はリーグと違った大会で、上にチャレンジできるというようなメンタル的な部分での違いはあると思いますが、選手たちが応援をプレッシャーに感じることはないので、引き続きご声援いただけたらありがたいです。』

■運営部門など

ー大型スクリーンについて、試合前の選手紹介の時に上下に黒い縁取りができたが、せつかなのでフルサイズにできないか？選手交代の画面で、相手チームの選手の名前が表示されない時があるが、相手チームにも失礼なので表示した方がいいのではないか？

『(満田)ご指摘の通りなので、担当者とも確認して早急に改善させていただきます。ただ、選手紹介ムービーについては技術的な問題がある可能性もあるので、早急に確認します。』

ースタジアムの件で、出店が少ないように感じる。スタジアムグルメも高くて味が悪い印象をもっているのもう少し創意工夫をしてほしい。

『(美濃部)来年スタジアムグルメの部分については手を付けたいと思っています。』

(満田) 地域間で保健所の申請など、基準が異なりますが、やはり長野市は少し基準が高いほうです。昨年よりも出店料を半分かくらい下げ、メニューの質についても求めてはいます。出店料をもう少し下げたい気持ちはありますが、収支のバランスを考慮した中で今年のラインナップになっています。今年の実績の中で、出店者さんの温度差も確認できたので、こちらからのチェックをかけた中でそれに見合うお店さんが出店できるように変えていこうと思います。』

ースタグルに関連して、アウェイサポーターもバックスタンドを行き来できるようになって改善されたとは思いますが、クラブとして直に飲み物を売るというのも一つの手ではないかと思うので提案させてもらいたい。

『(満田)我々が出店をした方がいいのか、現状のように外部の出店者さんにお任せした方がいいのかも含め、マーケティングの観点からもクラブにとって何がベストなのか検討していきたいと思います。』

ー スタジアムでのアンケート調査は行ったか？

『(満田)昨年まで J1、J2 のみで行われていた J リーグのスタジアム観戦調査が今年より J3 でも行われるようになり、弊クラブも 7/15 栃木戦で WEB アンケート調査を実施しました。今度の 10/9 盛岡戦では学生実施の対面調査も行います。そちらの結果を掛け合わせた中でクラブとしての情報を出します。』

ー 来場者について、チームの成績は関係あると思うが勝敗以外でクラブが提供できるものが何かあるのか？

(堀江)『スタジアムに来ていただけて楽しんでもらえるようにしたいですし、サッカーファンを増やしたいというのが主眼です。クラブの考えとしてはそういうふうを考えています。そのためのクラブの体制が満足に整っていない現状ではありますが、今季はさまざまな団体などと協力してイベントも行ってきています。クラブ独自にアンケートをとったり、こうした場で皆様の意見をいただいたりして、それを基によいものを組み立てていきたい。先日、スペインに視察へ行ったが、地域の皆さんをどうクラブに巻き込んでいけるかを考えなければいけないと感じているし、スタッフ一同少しでも前へ進んでクラブとしての価値を高めていかなければと思っています。』

(美濃部)チームの勝利を見て帰っていただきたいのはもちろんですが、それはメインディッシュに過ぎない。他に皆さんへ提供できるものについては足りていないですし、試合前の 2 時間、終わったあとの 1 時間をどう過ごしてもらえるかを工夫しなければならないと思っています。たとえば、先ほどのグルメの話ですが、本当は直営で出店して自由度を高くより質も求めてやりたい部分はありますが、それが可能なかどうかも含めて現実的にできることとできないことがあるのも事実なので、その中でもサッカー以外でのところで楽しんでもらえる空間にしていきたい。ただ、昨年までと大きく変えたのは、現場に理解もいただきつつ、選手がイベントや長野の祭りなどに出ていく回数はすごく増えています。その他の部分でも、皆さんからの意見をいただきながらやればというふうに思います。』

(有賀)『駐車場については来期までに +500 台分を成功させたい。アメリカなどで活用されている乗り合いサービスについての導入を検討していきたい。』

ー チームカラーがないのが欠点になっていると思うので、何を大事にするかというのを定めてほしい。

(小笠原)『チームカラーも大事だとは認識しています。いろいろな難しさはあるが、ひとつひとつクラブとして積み上げていく構想をもって取り組んでいるので、それを信じていただきたい。少し外れるかもしれませんが、なでしこリーグの実行委員の中で長野のサポーターの熱がすごいということは話題になっています。昨日のトップチームのアウェイゲーム(9/17 FC 東京 U-23 戦)に、雨の中あれだけの方に来ていただき、サポーターの皆さんの力

は感じています。それに対して応えていかないといけないと思って我々もやっていきます。いろいろな意見や想いをいただいておりますので、それを受け止めながらクラブ、チームをいろいろな面でよくしていきたい。』

※予定していたグループワークは時間の都合上、不実施となりました。
また、改めて実施をさせていただく予定です。